

【目次】

- 【1】 関西支部総会・講演会報告
- 【2】 第 57 回全国大会のお知らせ
- 【3】 支部メンバーコラム（京都情報大学院大学 柏原 秀明教授）
- 【4】 各研究会（全国・支部）の活動
- 【5】 他支部、他学会、その他関連講演・講習会等の案内
- 【6】 その他お知らせ・ご連絡

♪==♪==♪==♪==♪==♪==♪

日本生産管理学会関西支部・メルマガ受信希望者各位

大阪学院大学の葛西です。

2 月も中旬となると、寒い日の中ばかりでなく、季節外れの暖かさを感じる日もあり、寒さと暑さのせめぎあい起きていて、すこしづつ、ほんの少しづつ、あたたかい風を感じる割合が増えてきつつあると思わされます。それはまるで地表にこびりついた氷の層を、空からの暖気が溶かし、吹き払おうとしているかのようです。そう気がついたとき、季節の移り変わりまで、まるで事業の縮図のように感じました。どんなにつらい、苦しい時期が続こうと、春の来ない冬はない。コロナ禍、ウクライナ戦争、円安、どれも強烈に冷え切った外部環境でしたが、好転の兆しがところどころ現れてきました。この変化を自分のものとし、冬の間に貯めた地力を発揮し、自らの力で地表の氷を溶かして春を迎える。これからは正念場になるのだなと感じられるこの頃です。

来月 3 月 3 日(金)~3 月 5 日(日)、全国大会が西南学院大学で実施されます。ぜひ、地力をつける活動の一環として、ご参加いただくと幸いです。なお、今回は、以下はすべて対面となっています。オンライン併用はありませんのでご注意ください。

■大会日程

2023 年 3 月 4 日(土)：事業中間報告会・基調講演・特別講演・情報交換会

2023 年 3 月 5 日(日)：研究発表／研究会報告

---

発行：日本生産管理学会関西支部

連絡先：葛西恵里子(ekasai@hi-ho.ne.jp)

---

【1】関西支部総会・講演会報告

去る 2 月 4 日、日本生産管理学会関西支部の 2022 年支部総会・講演会を実施しました。関西支部の課題は、ここ数年会員減少傾向が止まらないこと。対策として、

(1) 講演会・工場見学会など、学会としての外部活動を増やし、さらにアピールする。

(2) 講演会は商工会議所など外部で実施し、チラシ等配布してアピールする。

ことを 2023 年の方針として進めていくこととしました。関西支部の魅力づくりは

講演会は、「サステナブル経営の実践」をテーマに、2 つの講演を実施しました。一つ目は一般財団法人ニッセンケン品質評価センター品質保証本部 コンサルティンググループ常務理事 片岡和洋 氏より、「アパレル製品の廃棄を減らすために～よりよい品質にこだわるものづくりをサポート」についての報告でした。ニッセンケン品質評価センターは、1948 年設立と歴史があり、「廃棄につながる無駄なものを作らない」ために、クレームや不良品回収等のロスとなる製品を亡くしていく取組みをサポートしています。SDGs の「作る責任、つかう責任」双方に対し活動をしており、サーキュラー・エコノミーを実現すべく、企業において製品寿命の延長・製造過程での廃棄削減の取組みを支援しています。私が印象に残ったのは、1 つの衣服においても天然繊維・化学繊維など様々な材料が使われており、またボタンや金属

の飾りなどもついていることがありますが、それらは同時に廃棄できないため、材料の統一を図る動きがあるということ。それはデザインの多様性を損なう側面もあり、廃棄を意識した衣服を選択することをもとめて消費者への働きかけも必要なものです。けれど少しずつでも実施しなければ廃棄が困難だという現実を変えることはできません。消費者の意識変革は気が遠くなるような話ですが、これら地道な努力が社会を変えるのだなと実感しました。

二つ目の講演は株式会社バックキャストテクノロジー総合研究所 執行役員 環境・エネルギー本部長 博士（環境科学） 藤井達也 氏より、「サステナブル経営の実践 ―ESG（環境、社会、企業統治）経営とCO2 の見える化―」と題して行われました。CO2 排出量の見える化・数値化は環境経営を実施するには不可欠で、企業によっては取引先から提出が義務付けられている場合もあります。中小企業が行うには膨大な工数がかかり、コストや負担増につながります。そこで当社は、CO2 排出量を会計情報と紐づけて自動算出できるツール「環進帳」を開発しました。Web を活用し、会計情報のCSV ファイルをアップロードするだけで自動的に算出できるため、作業負荷がとて少なく、しかも安価に提供できているところがシステムの優位性をさらに強めています。参加者からの感想でも、「そのような仕組みがあったのか」「以前から論理的には可能と思っていたが、実際に開発されているとは思わなかった」といった感動の声がありました。社会の要請に技術で応える、その姿勢に触れることができました。

講演会の内容は、ビデオに収めています。ご興味のある方は公開 URL、資料を送付いたしますので、ご連絡ください。

## **【2】第 57 回全国大会のお知らせ**

第 57 回全国大会の全国大会が 10 日後に迫ってきました。ぜひ多くの方にご参加いただきたいと思えます。なお、今回は基調講演・特別講演、研究発表／研究会報告とも完全対面実施です。

■日時：2023 年 3 月 3 日（金）～3 月 5 日（日）

2023 年 3 月 3 日（金）：論文誌編集委員会（英文和文）・理事会（オンライン開催）

2023 年 3 月 4 日（土）：事業中間報告会

基調講演・特別講演

情報交換会

2023 年 3 月 5 日（日）：研究発表／研究会報告

■開催場所・方法：西南学院大学（完全対面実施）

（住所）〒814-8511 福岡市早良区西新 6-2-92

（電話）092-823 - 3201

（アクセス）福岡交通局地下鉄福岡空港線西新駅から 徒歩 5 分

■統一論題：「VUCA 時代のオペレーションズ・マネジメント」

少子高齢化が進み、日本の生産年齢人口は 1995 年にピークを迎え、総人口も 2008 年をピークに人口減少時代に入り、近年、産業の種類を問わず人手不足が顕在化してきています。また、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延によるサプライチェーンの分断は、2 年以上経過しても改善の兆しがまだ見えません。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻で、エネルギー価格が急騰し、経営コスト増の要因となりつつあります。このようにビジネスを取り巻く環境が激変する VUCA（ブーカ）時代に対応できるオペレーションズ・マネジメントが、今、求められていると考え、「VUCA 時代のオペレーションズ・マネジメント」を統一論題と致しました。

AR/VR、AI、IoT、DX など、新しい技術や概念も次々と現れる、この変化の激しい時代に相応しいオペレーションズ・マネジメントの姿を、8 年ぶりとなる九州福岡の地で皆様と議論するとともに、3 年ぶりの対面開催完全復活の機会としたいと思います。

なお、今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、対面参加者の地域を限定させて頂いたり、オンライン開催のみとさせて頂くなど、柔軟に対応させていただきますので、予めご了承ください。

■講演会：特別講演 1：株式会社資生堂 モノづくり技術革新部 部長 萩野 吉宏氏

資生堂が目指すモノづくり ～福岡久留米工場の竣工を経て～

特別講演 2：九州運輸局 交通政策部 環境・物流課 課長 小山 充氏

最近の物流施策について～物流 DX や物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の最適化～

特別講演 3: シーエススチール株式会社 代表取締役 松原 照明氏  
DX 活用によるオペレーション事例 ~中小企業のソリューション対策~  
福岡・西南学院大学でお会いしましょう!  
みなさまの積極的なご参加をお待ちしております。

### 【3】支部メンバーコラム (京都情報大学院大学 柏原 秀明教授)

毎回支部メンバーから、研究や近況、日頃の関心についてなどを、コラムとして紹介しております。  
第 8 回目となります今回は、京都情報大学院大学 柏原 秀明教授から寄稿いただきました。

## 人生 100 年時代のスキル向上を考える

京都情報大学院大学  
柏原秀明

### ■ はじめに

人生 100 年時代といわれる昨今である。企業で働く人たちの定年が 70 歳になりつつある。20 歳前後の知識・知恵を携えて働き始め、定年まで約 50 年間活動するには、当初の知識・知恵と経験だけでは持続的に付加価値の維持・向上は明らかに困難である。このような状況から経済産業省では“リスキリング教育(Reskilling Education)”による付加価値維持・向上を啓蒙している。ここでは、このリスキリング教育の紹介とその実現方法を中心に述べる。

### ■ リスキリング教育とは

リスキリング教育とは、“新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に対応するために、必要なスキルを獲得する／させること”であり“近年では、特にデジタル化(DX: Digital Transformation)と同時に生まれる新しい職業や、仕事の進め方が大幅に変わるであろう職業につくためのスキル習得を指すことが増えている”といっている。また、“リスキリングは単なる「学び直し」ではない。リスキリングは「これからも職業で価値創出し続けるために」「必要なスキル」を学ぶという点が強調される”といっている。このことは、内閣府が先導する Society5.0“サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会”に対応している[1],[2]。

日立製作所の DX 基礎教育・「デジタルリテラシー エクササイズ」4 講座 出所:日立製作所

### ■ 日本の豊富な人財の活用

日本の人口の内訳は、1478 万人(15 歳以下)、7450 万人(15 歳~65 歳)、1754 万人(65~74 歳)、1867 万人(75 歳以上)である(2022 年現在)。リスキリング教育を実践するためには、受講生と指導者が必要である。例えば、指導者候補である人財は、各年代でそれぞれ 0.5%および 1%と仮定すると 37.25 万人(40 歳~65 歳)、17 万人(65 歳~74 歳)、総計 54.25 万人になる。これらの人財は、様々な分野で活躍し経験豊かな 40 歳以上の指導者を想定している。この指導者は、デジタル変革のもとデジタル技術の知識・経験があり、ビジネスに対応した経営・サービス・技術・生産・教育などの経験に基づく能力を保持している人たちの活用が望ましい。

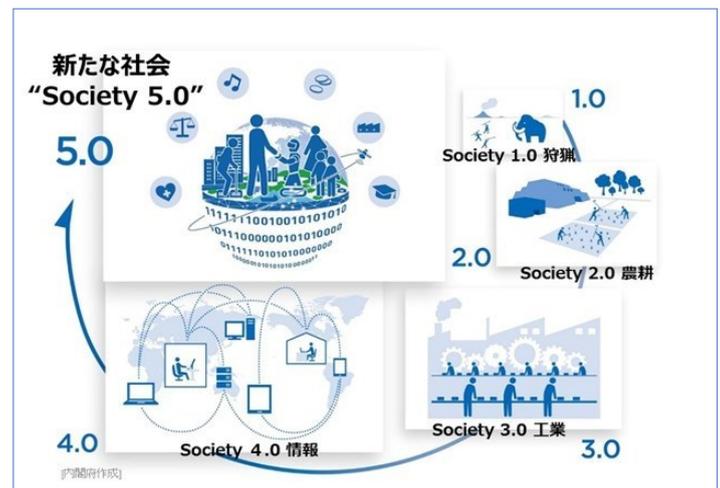
### ■ 人口減少と将来変革への対応

日本の人口は、江戸時代には約 3100~3300 万人で推移していたといわれている。現在の日本の人口は、1 億 2570 万人(2021 年現在)である。また、2050 年には 9515 万人になると予想されている[3]。

人口減少社会になることで日本の経済力が低下すると危惧されているが、はたして本当に危惧されるほどのことか疑問である。戦後、我が国が経済成長を遂げてきた国富の累積を反映すれば、危惧には当たらない。将来変革(経済, 教育, 技術, 社会, 金融, 文化, 医療など)を先取りするには、“リスクリテラシー教育”のような啓蒙・実践をどうしてひとり一人の人財の知識・知恵・経験とその能力の飛躍的な向上を図ることが重要であろう。また、“リスクリテラシー教育”に加えて次世代を担う子供たちへの幼児期からの自然環境を含めた様々な体験・経験ができる機会を提供する“発見・気づき・自ら考える教育”の一層の充実で将来変革への対応が期待される。

## ■ おわりに

人口減少時代に入ると“移民”を受け入れるという安易な対策は、避けるべきである。アジア・EU・米国などを見れば、政治・宗教・文化・教育・言語・風習・価値観・モラルなどの異なる人々との共生は良い面もあるが、様々な軋轢が生じているのも事実である。たとえ、我が国が江戸時代の人口になっても“リスクリテラシー教育”や“発見・気づき・自ら考える教育”を持続的に強化すれば“一層豊かで安全・安心”できる我が国の未来が約束されるはずである。



出所:参考文献[2]

## ・参考文献

[1] 経済産業省, “リスクリテラシーとは—DX時代の人材戦略と世界の潮流—”

[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/digital\\_jinzai/pdf/002\\_02\\_02.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_jinzai/pdf/002_02_02.pdf)

[2] 内閣府, “Society 5.0とは”

[https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

[3] 内閣府, “第1節 日本の人口の変化”

[https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2004/pdf\\_h/pdf/g1010100.pdf](https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2004/pdf_h/pdf/g1010100.pdf)

文: 京都情報大学院大学

柏原秀明<kasihara@mbox.kyoto-inet.or.jp>

## 【4】生産管理学会関西支部各研究会(全国・支部)の活動

関心のある研究会がございましたら、直接各「連絡先」までご連絡ください。

<1>生産性向上研究会(旧食品産業研究会を発展的に継承)

- ・ 次回予定: 3/19(日) 14:00~17:00,  
場所: Web 開催
- 次々回予定: 4月調整中、5/27(土), 14:00~17:00  
場所: Web 開催もしくは対面実施
- ・ 連絡先: 林 芳樹 (kyo884@khaki.plala.or.jp)

<2>SDGs のビジネス戦略研究会

- ・ 次回予定: 日程未定(4月ごろ検討中)  
場所: オンラインのみ・またはオンラインと対面併用(場所は対面希望者により決定)
- ・ 連絡先: 入江安孝(yirie@iriesys.jp)

<3>新資本主義研究会（SDGsのビジネス戦略研究会と同時開催）

・ 次回予定：日程未定（4 月ごろ検討中）

場所：オンラインのみ・またはオンラインと対面併用（場所は対面希望者により決定）

・ 連絡先：入江安孝(yirie@iriesys.jp)

<4>関西生産管理資格制度研究会

・ 次回予定：2023 年 3 月 7 日(火) 13:30-11:30

場所：大阪学院大学（対面実施）

・ 連絡先：柏原秀明(kasihara@mbox.kyoto-inet.or.jp)

【5】他支部、他学会、その他関連講演・講習会等の案内

<1>国際P2M学会 第 35 回研究発表大会

1. 大会テーマ：「SX(Sustainability Transformation) × DX(Digital Transformation)を支える P2M」

2. 開催日・形式

開催日 2023 年 4 月 22 日(土)

会場 東京都市大学・横浜キャンパス

〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3 丁目 3-1

開催形式 会場と配信のハイブリッド

（新型コロナウイルス感染拡大状況等により変更する可能性もあります）

3. スケジュール

(1) 午前(09:20-12:00 予定) 研究発表の部

(2) 午後 講演・パネルディスカッション

13:30 - 13:40 開会挨拶

13:40~14:20 基調講演1 `DX(Digital Transformation)の本質と推進課題

名古屋国際工科専門職大学教授 山本修一郎氏

14:20~15:00 基調講演2 `SX(Sustainability Transformation)の本質と重要性

東京都市大学環境学部教授 佐藤真久氏

15:00~15:20 休憩・設営

15:20~16:40 パネルディスカッション `「SX × DX の相乗効果、P2M との相乗効果」

16:40 - 16:50 閉会挨拶

4. 費用・申込

費用…午前の研究発表の部参加は有料(下記申込ページにて金額ご確認ください)、

午後の講演・パネルディスカッションは無料

※午前・午後とも必ず右記より申し込みをしてください。[http://www.iap2m.org/regist\\_taikai.html](http://www.iap2m.org/regist_taikai.html)

5. 問合せ先 国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

【6】その他お知らせ・ご連絡

・ 次回メルマガ情報提供のお願い

本メルマガは、関連の皆様の情報で作り上げていきます。

以下の情報をお持ちでしたら、末尾「連絡先」までご一報ください。

なお、次回発行は 2023 年 4/上~中旬を予定しています。

2023 年 3/末を目途に連絡をいただけると幸いです。

◎署名記事を募集します。ぜひ日頃皆さまがお考えのことをご披露いただき、議論の場にしていければと思っております。

◎他学会・他支部、その他関連講演会、書籍出版等、の情報があればお知らせください。

・ 読者募集・拡散のお願い

本メルマガは、支部内外・学会内外に関わらず、拡散歓迎です。生産管理に興味をお持ちの方に広く知っていただければ幸いです。継続して受信希望のある方は、直接送付いたしますの



で、末尾「連絡先」までご一報ください。

また、Facebook の [フォロー/いいね!](#)もぜひお願いいたします。

Facebook 一般社団法人日本生産管理学会関西支部 のページ

<https://www.facebook.com/jspmkansaihibu/>

本日の内容は以上です。

季節の変わり目、体調にお気をつけてお過ごしください。

-----  
発行: 日本生産管理学会関西支部

連絡先: 葛西恵里子 (ekasai@hi-ho.ne.jp)

-----  
\*このメールは日本生産管理学会関西支部会員および学会内外の希望された方へ配信しています。

また、このメーリングリストに登録の各位のアドレスは、生産管理学会のリストと同期できません。

アドレス変更をされる場合は、上記連絡先までご一報ください。